

小5国語 出題のねらいと対策

1 漢字の読み書き 88.7%

ねらい：漢字の正しい読み書きがしっかりとできるかを問う。

分析と対策：(5)の「断る」や(6)の「比べる」は、送り仮名のふり方にも注意してください。

2 漢字の部首 62.0%

ねらい：漢字の部首についての基本的な知識を問う。

分析と対策：形が似ている「うかんむり」と「わかんむり」のちがいをしっかりと覚えましょう。また、(2)「院」の「こざとへん」と「おおざと」や、(5)「福」の「しめすへん」と「ころもへん」のちがいについても確かめておきましょう。たとえば、「さんずい」は水に関する漢字の部首になるなど、一つ一つの部首には、それが表す意味があるので、それぞれの部首について、出題されているもののほか、どのような漢字があるかを調べておくとよいでしょう。

3 ことばの知識 93.3%

ねらい：形が変わることば(活用することば)についての知識を問う。

分析と対策：形が変わることばには、「走る」のような、「どうする」を表すことば(動詞)と、「うれしい」「静かだ」のような、「どのように・どのような」などを表すことば(形容詞・形容動詞)とがあります。これらを用いて、さまざまなパターンの短文を作ってみましょう。

4 物語の読み取り 61.6%

ねらい：物語の設定や、登場人物の心情の読み取りなど、物語を読む上で必要な読解の力を問う。

分析と対策：この文章は、子どものころからの夢をかなえて旅行会社の添乗員になったものの、その会社をやめてしまった「わたし」の心の動きが中心に描かれています。(2)にあるように「無我夢中」で仕事をしていたことや、(4)で問われている「こんな旅行の案内」に「わたし」がむなしさをつのらせる場面などから、「わたし」の気持ちの動きを読み取りましょう。会社のある骨董通りのたたずまいにわくわくしたり、なぐさめられている「わたし」の気持ちもおさえましょう。

5 説明文の読み取り 56.6%

ねらい：接続語の働きや、比喩の内容など、説明文を読む上での基礎的な読解の力を問う。

分析と対策：この文章は、筆者の息子である「光」の学校での成長を通して、学校に行くことの意義について述べられています。筆者は、「光はどうして学校に行かなければならないのだろう？」という疑問を持ちますが、光が「自分の心のなかにある深く豊かなものを確かめ、他の人につたえ、そして自分が社会につながってゆくための、いちばん役に立つ言葉」を、学校で、自分にとって確かなものにしていったことで、その答えを見出したといえます。

全体の平均点は68.1点です。大問別テーマのうしろの数字は、全体の大問別正答率です。個人成績表を見ながら、不得意テーマに対する今後の学習の方針を見つけましょう。